

## ヒグマ保護管理方針住民説明会の開催結果について

平成 24 年度よりヒグマ保護管理方針に基づいてヒグマの保護管理を実施していくにあたり、地域住民と保護管理方針の内容について意見交換を行い合意形成を図るため、平成 24 年 1 月に斜里町と羅臼町で各 2 回、2 月に標津町で 1 回の計 5 回の住民説明会を実施した。

**実施日時：**①1 月 11 日（水）18:00～19:30 羅臼町役場  
 ②1 月 12 日（木）18:00～19:30 知床世界遺産センター（ウトロ）  
 ③1 月 13 日（金）13:30～15:00 羅臼町役場  
 ④1 月 13 日（金）18:00～19:30 ゆめホール知床（斜里）  
 ⑤2 月 13 日（月）19:15～20:00 標津町生涯学習センターあすぱる

**参加者数：**計 87 名（斜里町 40 名、羅臼町 11 名、標津町 36 名）

### 参加者から出た意見・質問等：

#### ・管理方針や管理活動について

- ✓住民のゴミや干し魚による問題のほか、釣り人の魚処理による問題にも適切に対処していくべきだ。
- ✓出没件数は年々増加している。管理方針の捕獲頭数で大丈夫か心配だ。さらに危険な状況になるのではないか。駆除基準を下げて捕獲数を増やす必要があるのではないか。
- ✓管理方針の「捕獲」とはどのような意味かわかりづらい。捕獲と言われると「生け捕り」というイメージがある。
- ✓ヒグマを行動段階 1 から 2 へ移行させないためにはどうしたらよいか、その点をしっかりと行うべき。管理方針には明記がされていない。
- ✓管理方針が出来て当面の 5 年間は、結果や経過を見ながら進歩させていくということが大切だ。
- ✓緊急時の出動について、今後、管理方針に対応方法が明記され応援要請が入れやすくなることで猟友会としては安心できる。
- ✓これまで狩猟者は春熊駆除をしながら技術伝承をしてきた。現在の状況では後継者育成に心配がある。管理方針で狩猟者に学習の場を提供し、後継者を育成する点も考慮してほしい。技術伝承を行う場を多く設けるようにしてほしい。
- ✓斜里町の幌別川に出没するクマは市街地に入ってくる傾向があるように感じる。ウトロも近いので、幌別川に出没しはじめたら危険なクマと思って捕獲したほうがよい。
- ✓ヒグマの追い払いを住民が行うことは可能か？
- ✓駆除基準をきっちり設定しないと、同一のクマに何度も対応する必要性が生じる。
- ✓クマの出没件数はどのようにカウントしているのか？

- ✓ オスや若齢個体は捕獲対象から除外されているのか？
- ✓ 人為的死亡数の上限について、5歳以上のメスグマというのはどういった基準で定めたのか？
- ✓ 人為的死亡数に上限を設ける対象地区は知床半島全体なのか？

#### ・ ヒグマについて

- ✓ 人慣れたクマが多くなっているように感じるが、追い払いをしていることが原因ではないのか？
- ✓ 以前は1頭連れだったものが2頭連れの親子グマが増え、最近では3頭連れまで出ている。クマが増えている印象がある。
- ✓ 以前は、網の設置のために船で上陸しようとするのを逃げたヒグマが、近年ではエンジン音を大きく響かせても反応しなくなってきた。人馴れが進んだのではないか。
- ✓ クマはシカを捕食することで栄養状態がよくなっているのか？クマとシカの関係、どんぐりの豊凶との関係を知りたい。
- ✓ 知床半島にどの程度のクマが生息しているのか？
- ✓ 知床半島のクマ頭数に関して、山に行って簡単にクマが見える現状からすると、説明があった「メス推定150頭」よりも多い気がする。
- ✓ 出沒するクマは若齢個体が多い。そうしたクマがそのまま成長すると、将来どのような影響が出るか心配だ。

#### ・ その他

- ✓ 住民説明会の参加者が少ない。広報不足である。
- ✓ 羅臼の食文化を考えると干物を干さなくなることはない。
- ✓ 管理方針は住民説明会以外に地域の合意形成がなされているのか？
- ✓ 札幌に出沒するクマに対し、札幌の有識者は「ほっとけば山に帰る、なぜ大騒ぎするのか」と言っているが、不愉快な発言だ。やめさせるべきだ。